

市長記者会見記録

日時：2026年4月7日（火）14時00分～14時25分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《新年度を迎えた所感等について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入ります。

まずは、幹事社様からよろしくお願ひいたします。

【東京（幹事社）】 幹事社、東京新聞です。本年度もよろしくお願ひいたします。新年度になりまして大体1週間たったというところで、今回、特別職の方が4人替わられたというか、3人入れ替わりになりましたけれども、実際1週間やってみて、どのような雰囲気か、市長としては初めて官僚の方を迎え入れたわけですけれども、その辺で刺激を受けているところなどありましたら教えてください。

【市長】 もう既に何度か特別職での会議を行っておりまして、非常に活発な意見交換を行っております。改めて、副市長と私とのコミュニケーションをどうやってうまくやっていくのか、あるいは今日も定例の局長会議、年度の初めてなんですけれども、会議の持つ意味だとかということを改めて確認して、より効率的でコミュニケーションよくやっていくということはどういうことなのかということについて改めて確認させていただきました。

八尾副市長に関しては、非常に活発に意見をいただいております、そういう意味で、これまでの特別職もすばらしい方ばかりでありましたけれども、改めていいチームができたなと思っております。

以上です。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。3月末で坂元医務監、学長が御退任されたということで、新型インフルエンザとかコロナのときの記者会見でもすごく熱心に御対応いただいたりですとか、看護大学の4年制化も坂元先生の御尽力が大きかったのではないかなと思うんですが、市長のほうから坂元先生の御退任に当たっての受け止めを教えてくださいませんか。

【市長】 先月、医療関係5団体の皆さんとの新型インフルエンザ対策という会議を

年に1回やっているんですけども、そこで坂元学長、医務監が最後という形になったんですけども、実はあれができたのも、やはりコロナのパンデミックがある前からしっかりこういったことに医療関係団体が緊密に連携を取っていきこうという形で一緒にやってきた、私が市長就任のときの最初の仕事であったと記憶しています。

そういうことでありますとか、看護短期大学が大学への4年制の移行、大学院の開設、それぞれにやはり川崎市民にとっての健康、福祉という意味での尽力は長年にわたって本当に貢献していただいたと思って感謝しています。そういう意味では、いろんな形でのアドバイスを直接医務監からいただくことも多かったので、本市に大変な御貢献をいただいたなと、市としてもそうですし、個人的にもとても感謝しています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

どうぞ。

《女性の管理職登用等について》

【共同（幹事社）】 幹事社の共同通信です。このたびの春の人事で、管理職に占める女性の割合が25%を超えて、過去最高になりました。こちらについて所感をお聞かせください。

【市長】 過去最高ということは、数字上そうなんですけれども、目標値である30%にまだ達していないということはまだ大きな課題があると思っていまして、そういった意味で、引き続きしっかり取り組んでいきたいと思っています。一定のところまで来ているんだけど、まだまだしっかりやらなきゃという意味の数字だと捉えています。

《中東情勢の緊迫に伴う影響等について》

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。話が変わるんですが、中東情勢の悪化を受けて、様々な影響が今懸念されているところだと思います。現時点で、既に市内で確認できている影響があれば教えてください。

【市長】 もうあらゆるところって言えばあらゆるところなんですけれども、実際に建設業の皆さんとも、業界ごとに少し、公式な立場ではありませんけれども、意見交換する機会があって、例えば塗装のところだと、塗料みたいのが非常に手に入りづらくなってきているという話ですとか、報道されているような話が市民生活の中にもいろいろ出てきているということを感じております。

先日、報道にもありましたとおり、市営バスの燃料の入札不調ということもありましたし、消防局のところでも、地下の備蓄みたいなものが少し不足しているところがあるので、ガソリンスタンドでの給油に切り替えたりという対応をしているところで

あります。なるべく長期に影響が及ばないことを願っております。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。今、最後に、長期で影響が及ばないことを願うというお話がありましたけれども、国で今後いろいろ対策が進んでいくと思うんですけども、改めてどういうふうに取り組んでほしいか、注文があれば教えてください。

【市長】 総理がおっしゃっているとおり、国内での備蓄が8か月ですか、かなりあるということでもありますけれども、何となく冷静さというものを保つ、あるいは、今出回っているものが、先ほどの塗料の話もそうなんですが、先を見越して買占めみたいな話になりますと全員が損をするということなので、政府としてはこれこれこういうところでは大丈夫なので、冷静な対応をしっかりと求めていくという正しいメッセージをしっかりと発していくことがまず何よりも大事なのではないかと思います。1つたがが外れると連鎖的にこういうものはおかしくなると思うので、物価高騰対策みたいな形で補助を打っていくことも大切ですが、まずは政府としてしっかりとそこを呼びかけて、そうならないような方策がどういうものがあるのかということを考えていただきたいと思っています。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。1点確認なんですけれども、政府として冷静さを保って、国民も冷静でいられるようにしてほしいということですね。

【市長】 そういうことです。

【共同（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【市長】 ですから、ある意味、物資は足りているはずで、もし買占めみたいな話があれば、そこに対しては断固たる体制というか、対応を取っていただきたいと思っています、そういったことが理不尽なことにならないためにも、そういった措置は私は必要なのではないかなとは思っています。あくまでも個人的な思いでありますけれども。

【司会】 幹事社様はよろしいでしょうか。それでは、幹事社様のほかに質問される場合には挙手をお願いいたします。

産経新聞さん。

《市立川崎病院における不祥事について》

【産経】 産経新聞です。よろしくお願ひします。市立川崎病院の不祥事の関係でお伺いしたいんですけども、川崎病院のホームページを見ると、患者の権利として、治療についての知る権利や希望や意見を述べる権利があると記載されているんですけども、この間の麻酔科医の不祥事に関しては、麻酔科医が長時間いない状況で手術が行われていたり、あと麻酔薬を一部抜き取って、その分、希釈した麻酔薬を使って

いたということを患者に伝えていないということなんですけれども、これは伝えるべきだと私は思うんですけれども、市長はどうお考えでしょうか。

【市長】 申し訳ありません。私、患者さんにどう伝えているのか伝えてないかということ、実は今の御質問まで把握をしておりませんでした。ですから、そういった意味で、病院としての対応がどう適切にされているのかということを確認したいと思っています。

【産経】 それじゃ、確認して、市長のお考えをどう我々に伝えていただけますか。

【市長】 その方法については、クラブの皆さんにも御相談させていただいてよろしいでしょうか。

【産経】 はい。

以上です。

【司会】 ほかに御質問ございますか。

t v k さん、お願いします。

《こども誰でも通園制度について》

【t v k】 t v k です。よろしくお願いします。今年度から、全国でこども誰でも通園制度がこの春スタートしていると思います。県内では川崎、横浜など3政令市では2024年から先行して始まっていたと思うんですが、何かそこで見えてきている課題などがあれば教えていただきたいのと、今後、園の数を増やすなど目標があったら教えてください。

【市長】 先行して取り組んだところでは、大きな課題はそれほど私は認識しておりませんが、しかし、全国的に言われているのが、利用時間が非常に限られているということと、それと見合った報酬にしっかりなっているのかということについては課題はあるのではないかとはいっていますが、今、川崎市の中でどういうふうに進んでいっているのかということについては、私なりにしっかり把握したいと思っています。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますか。

神奈川新聞さん、お願いします。

《女性の管理職登用等について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、一番冒頭にあった女性管理職の話で、市長が感じるボトルネックになっているようなものというのは、市長が登用しているところもあると思うんですけれども、市長が感じられているボトルネックになっているよ

うなものはどういうことが挙げられますか。また、それを今後どう改善していきたいな、もしあれば教えてください。

【市長】 2年ほど前から昇任試験のこと、係長の制度のやり方を少し変えています。というのは、係長試験のところでは、いわゆるライフステージの中で、例えば子育て、あるいは妊娠中とか、まさに子供と一緒に育てていって、試験勉強と一緒にやっていく、あるいは昇任してからというのが非常に難しいタイミングにあるというのが非常にボトルネックになっていたと思います。そのところを解消しつつあるので、こういったところから改善できていけばいいなと思います。要は、管理職、係長から先というのが、全体のパイが増えないと、いわゆる課長以上の職がどうしても満たされていかないということになりますので、まずそこをしっかりと解消していくことが大事だと思います。

それともう一つは、やはり子育てしながらとか、あるいはどんな状況であっても、女性も働きやすい、またそういうことができてきたというロールモデルをしっかりと示していくことが大事だと思っています。そういったところを引き続き庁内全体で高めていきたいと思っています。

《中東情勢の緊迫に伴う影響等について》

【神奈川】 ありがとうございます。

あと、市長のほうから先ほどもありましたけど、市バスの軽油を再入札した結果、前回に比べてほぼ倍増、その辺というのは、やはりこれくらい行くものなのかとか、どういうふうに感じられたのかという率直な……。中東情勢悪化から想定していたのかというか。

【市長】 いえ、どこまでというのは正直、今も想定できない状況だと思っています。3か月から1か月半という形で縮めましたけれども、さて、これからの1か月半でどういうふうに変動していくのかというのは誰にもまだ見えないところなので、そういった意味で倍ぐらいに上がったというのは、そもそもどれぐらい上がるのかも分からないところで、本当にデイリーでやれるんだったらまだしも、これからものすごく高まっていくのであれば、正直2倍でも足りないのかなという入札する側からの見方もあるでしょうし、単純にスポットだけで見ると、やっぱりちょっと高いんじゃないのということはあると思いますが、先行き不透明な中で、ここで価格が高いか低いかというのは一概には言えないなと思っています。それが今のマーケットの見方なんだと捉えています。

【神奈川】 当然冷静に、交通局の方に聞くと、大幅な値上げとか減便だとかは全然

まだ考えていませんというお話をされていましたが、市長自身もやっぱり冷静に状況を見極めながらというような感じなんですか。

【市長】 そうですね。燃料だけが、いわゆる運賃改定のポイントではなくて、人件費ですとか、あるいは車両の購入だとか、様々な物事を全部とらまえた中での料金体系なので、単純に今回の燃料高イコール料金値上げという形にはならないと考えています。

【神奈川】 経営悪化についてはちょっと危惧しなきゃいけないのかなとは思いますが、その辺はどう……。

【市長】 聞いている話でいきますと、1円ガソリン価格が上昇すると大体450万から500万ぐらいの影響が出てくるということなので、これぐらいの上がり方をするととんでもない話になるなということですから、直に響いてくると思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 東京新聞さん、お願いします。

《ラゾーナ川崎プラザについて》

【東京（幹事社）】 すみません、ちょっと話が変わって、まだ先なんですけれども、9月にラゾーナ川崎が20周年を迎えるということで、ラゾーナが開業したことによるインパクトを市長としてどのように捉えていらっしゃるか、改めて伺えますでしょうか。

【市長】 川崎駅周辺変わったねと言われる方の多くが、ラゾーナができたことによる影響はすごく大きいと思います。やはり東京、横浜、あるいは南で行くと横須賀、こういったところからかなり川崎、ラゾーナの存在で移動してきているということがデータ上でも明らかなので、人の流れを変えるだけのインパクトがあったと思いますし、今、売上げでいくと日本最大の商業施設と聞いていますので、そのインパクトはものすごく大きいものがあるなと思っています。何となくラゾーナのことを知っている首都圏の人って非常に多いなと。私もどっか行くと、ああ、ラゾーナいいですよなみたいな話を聞くので、川崎市の魅力の一つになっていると考えています。

【東京（幹事社）】 一方で、東芝本社が川崎に来たりもしましたけれども、堀川町工場時代のことというか、あの一帯の東芝の工場が20世紀の日本の暮らしを支えた部分ってすごく大きかったと思うんですけれども、東芝未来科学館も一般公開が終了してしまったりとか、堀川町工場時代の東芝の功績みたいなものを伝えていくことも必要なんじゃないかなと思うんですけれども、市としてその部分で考えていらっしゃるってありますでしょうか。

【市長】 現時点で東芝さんだけをクローズアップしてということはないですけども、科学館が閉館される際にも、一般公開という形ではないにしろ、何らかの形で伝えていくということに、いろいろ考えたいということをおっしゃっていたので、そういう意味では、どんなことが一緒にできるかということについては今後も協議していきたいと思っています。

【司会】 御質問ございますか。

読売新聞さん、お願いします。

《川崎市都市イメージ調査の結果等について》

【読売】 読売新聞です。少し質問が遅くなってしまって恐縮なんですけれども、3月末に出た市のイメージ調査について、結果についての受け止めをまず教えていただきたいと思います。

【市長】 まず、愛着ですとか居住推奨度ですとか来訪推奨度という、ほぼ全ての項目で前年度を上回ってということで、過去最高の数値になっているということは、正直、100周年記念イベント関係から爆上がりしたのじゃないかという話で終わらせることなくということで、さらにここをベースにして頑張ろうと取り組んできたシティープロモーションとしての取組が大いに成功してきているのではないかなと思っています。引き続き頑張りたいと思っています。

【読売】 ありがとうございます。一方で、治安に関するイメージが先行して、ちょっと悪いところがあると思うんですけども、ここについて、今後どういう対策を取っていかれるか教えてください。

【市長】 2つのことがあると思っていまして、安全と安心というものをしっかりと2つ分けていかなくちゃいけないなと思っています。安全の意味では、刑法犯の認知件数で見ますと、コロナ前ですと、川崎市、人口当たりのものが最も低いという形になっておりましたけれども、残念ながら今、下がってきているという現状にありますので、今年度の予算でもつけておりますけれども、戦略的な防犯カメラの設置ということで、確実にこの数字をまず下げるとい、リアルな数字をちゃんと下げるとい安全の取組と、それから、今回のアンケートでも明らかになっているのは、若年層の治安に対するイメージがよろしくないということは、これまで車座集会などでも、若い中高生、大学生も含めて意見交換しておりますと、アンケート結果にも出ていますけれども、実際に何かに遭ったということよりも、かなり伝聞の話ですとか、あるいは何となく、コンビニ前でとか、例えば繁華街で中高年の男性が飲んでいる雰囲気怖いと感じたり、あるいは比較的高齢層からすると、若い人たちがコンビニでた

むろしてしゃべっているのが怖いというような、知らないことによってイメージとして怖いという、そういうものはある意味、不安というか、こういったイメージ調査みたいのに現れるんだと思います。

ですから、そういった意味では地域のつながりをより深くしていくという、非常に長いことかかることでありますけれども、不安だと思っているものをしっかり取り除いていくような取組は引き続きやっていくと、こういう2つの話を両軸で、2つの柱をしっかりと回していく必要があるのかなと思っています。

【読売】 ありがとうございます。さっきおっしゃっていた川崎市が刑法犯の認知率が人口当たりで最も犯罪が低いところが、残念ながら下がっているとおっしゃっていたのは、残念ながら上がっている……。

【市長】 すいません、残念ながら上がっているです。ごめんなさい。

【読売】 ありがとうございます。

【市長】 失礼しました。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。

時事通信さん、お願いします。

《大都市制度について》

【時事】 時事通信社です。市長がいつも注視されているという副首都構想のほうですが、自民党と日本維新の会、関連法案の骨子案で合意があったということで、その中で、政令市を廃止して特別区を設置する要件がなくなったというような話ですけれども、多極分散型のようなものを目指される、大阪の意見がなくなったということですが、この件について、市長に感想かお考えがあればおっしゃっていただければと思います。

【市長】 副首都法案のある意味、骨子がちゃんと発表されてないので、どういうものなのかなというのをしっかりと注視していかなくちゃいけないと思っているんですが、ただ、前回も申し上げましたけれども、東京都一極集中を脱して、多極分散型の成長していくような国家にしていこうという、そういった考えは特別市の話と共通の認識だと思っています。ですから、繰り返しになりますが、副首都法案と併せて、しっかり大都市制度の在り方という意味でも、特別市の法制化と一緒にセットでどうか、並行して議論を進めていただきたいということを願っております。

【時事】 ありがとうございます。質問が逆になっちゃったんですけど、市長、指定都市市長会で大都市プロジェクトのリーダーを務められ、今はあれですか。

【市長】 はい。4月1日から引き続きプロジェクトが存続して、私も引き続き担当

市長になりましたので、これまで以上に頑張っていきたいと思っています。

【時事】 じゃ、同じリーダーということでよろしいですか。

【市長】 はい。

【時事】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。質問は以上でよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございます。
した。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当